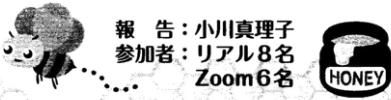


10月の科学あそび分科会



ミツロウラップ作り

報告：小川真理子
参加者：リアル8名
Zoom6名



日常に便利に使っているビニール袋などのプラスチック製品、でも今、そのプラスチックゴミによる海洋汚染が深刻になってています。少しでも無駄に使うプラスチックを減らそうとマイ箸、マイカップを使う人も多くなっています。今回はラップの代わりに使えるミツロウラップを作りました。ミツバチの働き蜂は腹部にある分泌腺からロウ物質を出し、それで六角形の巣を作ります。ミツロウには抗菌作用があり、これで作ったラップは野菜を新鮮に保ってくれます。化学薬品を使っていないので安心です。ただ、肉や魚をラップするのには適しませんし、電子レンジや熱いお湯で洗ったりしてもロウが融けてしまいますので、この2点については注意が必要。私はお弁当のサンドイッチやおにぎり、パウンドケーキなどを包むのによく使っています。

ミツロウは、今回はミツバチを育てているときにできる無駄巣を使いました。ミツバチの活動が旺盛なとき、巣枠の外にまで巣を作ってしまいま



す。そこには蜜を入れたり卵を産んだりしていないので、そのまま取り除いて普段は捨ててしまうのです。でもこれもミツロウですので、ろうそくやミツロウラップを作るのに使えます。捨てるのはもった

いない。材料のココナッツオイルや松ヤニは、布をしなやかにして容器に沿って押えられるようにするためのもので、なくても大丈夫です。

ミツバチの巣だけでなくアシナガバチの巣でもできるでしょうか?という質問が出ました。アシナガバチの巣は樹皮の繊維をアシナガバチの唾液で練って作るので、食品を包むラップには不適だと思います、スズメバチの巣も同じ理由で不適でしょう。

【材料】

ミツロウ、ココナッツオイル(なくても良い)、松ヤニ(なくても良い)、木綿の布

【使うもの】

アイロン、クッキングシート、ミツロウを融かす容器(缶詰の空き缶など)

【作り方】

① ミツロウ3:オイル1:松ヤニ1の割合で

容器に入れ、湯煎にかけて融かします。



② アイロン台にクッキングシートを敷き、そ

の上に木綿の布を置いてミツロウを何カ所かけます(固まっている場合は何カ所かに置きます)。

布の上からもう一枚クッキン



グシートを置き、その上からアイロンで押えて布にま

んべんなくミツロウが染みこむようにします。

ミツロウが塊の場合でも、熱で融けて布に染

みこみます。

ミツロウが少なくて全体に染みこまなかつた

場合は、染みこんでいない場所にもう少しロウをかけます。ミツロウが多すぎる場合はクッキ

ングシートからロウが出てしまう場合があります。床などにロウがこぼれると面倒なので少なめにして、足しながらやる方が良いでしょう。でも多すぎた場合は、もう一枚布を上に置いて、そちらの布に余分なロウを染みこませるようにします。布は薄手の木綿が適当で、厚い布はロウをいっぱい吸ってしまいうまくいきません。今回、ガーゼもロウを吸い過ぎて不適だとわかりました。



カラフルなミツロウラップができました

私は子ども達にこれを科学あそびとしてやったことはないのですが、静岡の森さんはそちらの皆さんで作られた「みんなの宿題 SDGs」という冊子を読みきかせた後、私達にできることを提案したり話し合い、最後にエコラップ作りをされているそうです。その際は市販のミツロウチップを使ってやるそうで、25cm角の布をラップにするのにミツロウチップ8g程度ができるとか。ただ、子ども達よりも親たちに人気があるようです。

子ども達が環境について考えられるような科学あそびを、もう少し工夫したいです。



おまけ～分科会が始まる前の時間に作った、無駄巣を手で固めるだけのロウソク。火もちゃんとつきます(手前)

(写真:三田・木甲斐)